

JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通活性化協議会
会議議事録（第24回）

1. 日 時

令和4年6月18日（土）午前10時00分から午後00時10分まで

2. 場 所

笠置町いこいの館 2F 会議室

3. 出席者：委員18名（うち代理2名）、オブザーバー2名（うち代理1名）

4. 議題等

(1) 報告事項

報告第1号 JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通活性化協議会規約等の改正

報告第2号 令和3年度収支決算

報告第3号 相楽東部広域バスの利用状況

報告第4号 JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通計画の取り組み

(2) 協議事項

協議第1号 令和4年度事業計画（案）

協議第2号 令和4年度収支予算（案）

協議第3号 令和5年度地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統確保維持計画(案)）

(3) 意見交換

5. 配布資料

次第

委員名簿

座席表

資料1 報告第1号 JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通活性化協議会規約等の改正

資料2 報告第2号 令和3年度収支決算

資料3 報告第3号 相楽東部広域バスの利用状況

資料4 報告第4号 JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通計画の取り組み

資料5 協議第1号 令和4年度事業計画（案）

資料6 協議第2号 令和4年度収支予算（案）

資料7 協議第3号 令和5年度地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統確保維持計画(案)）

資料 JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通計画 概要版

資料 ローカル線に関する課題認識と情報開示について（JR西日本より）

6. 審議結果

(1) 報告第1号 JR 関西本線(加茂以東)沿線地域公共交通活性化協議会規約等の改正

- 名前が変更になったことよりも(広域交通と町内交通の棲み分けを実施したこと等)変更となった目的を伝えることが大切。
- 事務分担については、各町村でやりやすいよう実施していただければ良い。

(2) 報告第2号 令和3年度収支決算

- 資料2は分かりにくい。昨年度の主な支出は①広域バスの運行、②協議会の運営、③交通計画の策定の3点であり、どの取組にいくらかかったか見て分かるように次回から修正していただきたい。

(3) 相楽東部広域バスの利用状況

- 月ヶ瀬ニュータウンが前年比で減少したのは、村タクの影響か。また、笠置駅、大河原駅が増加した理由は何か。
⇒詳細な分析はできていないが、月ヶ瀬ニュータウンの減少については、村タクの影響が一定あるように思う。(事務局)
笠置駅については、JRの跨線橋を通行するのに不安な高齢者が広域バスへ移動手段を転換しているように思う。大河原駅には村タクの事務所があり、村タク利用者が広域バスに乗り換えしているため、増加しているものと考えられる。
- コロナ等の複合的な要因があると思うが、今回(R3.10~R4.5)の実績は平均乗車人数0.908人と1.0人以下となった。6月~9月までで年間1.0人となるように努力してほしい。(来年1.0人以下なら本協議会の会長を辞する予定である。)

(4) 報告第4号 JR 関西本線(加茂以東)沿線地域公共交通計画の取り組み

- 和束町には令和7年度に保健センター、笠置町には駅再生でリニューアルした笠置駅、南山城村にも駅再生でリニューアルした大河原駅と各町村にターミナル的な施設ができる。この施設等を活用しながら、公共交通の利用促進や地域の活性化に繋げてほしい。

(5) 協議第1号 令和4年度事業計画(案)

(6) 協議第2号 令和4年度収支予算(案)

- (次年度予算の中で災害時等臨時運行分として約35万円程度を計上しているが)「相楽東部広域バス」ではJR関西本線を補完しているバスというのが伝わりにくい。
- 今朝、JR大和路線の遅れで広域バスへの乗り継ぎができなかったが、例えば、JR関西本線で遅延等の事象が発生した場合、広域バスが代替輸送を担うわけだが、その周知があまりできていないように思う。本協議会の名称にも利用しているのだから、関西本線と広域バスの紐付けを意識した方が良いと思う。
- 例えば、(相楽東部広域バスという正式名称は残しつつも)「関西本線サポートバス」

のような愛称をつけても良いように思う。

- 協議第1号の計画にあったバスに貼り付けるマグネットシートを新調する際に、JR 関西本線を補完している文言を新たに入れることはできないか。
 - この地域のターミナル駅になっている加茂駅でも広域バスの周知を広めていく必要があると思う。(広域バスなら、月ヶ瀬口駅まで各駅に行け、跨線橋を渡る必要ない等を周知するなど)
⇒JR 関西本線を補完している文言を入れる方向で検討していく。(事務局)
- (7) 協議第3号 令和5年度地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統確保維持計画(案))

7. 意見交換

- 4月11日のプレスした資料をお配りしている。廃線ありきでの公表ではなく、地域や自治体等と今後について対話していくために、現在の公共交通の現状を共有させていただいた。
- ローカル線に関する発表のマスコミの受け止めはショッキングであり、減便もあったため、廃線ありきのような報道もあった。
- 地域が自分事として捉えてもらえるようにしていく必要がある。先ほどの加茂駅への情報の掲示も含め、沿線市町村等と協力していきながら利用促進を進めていきたい。
- 大阪駅で大和路線は「加茂」まで行くことは分かるが、亀山まで行くことは分からない。その辺りから見せ方の工夫があっても良いのではないか。例えば、JR九州では 乗り継ぎ先の行先まで表示されていて分かりやすい。
- JR の発表はかなり重く受け止めている。亀山駅は他路線への接続もあり、本市としても利用促進に努めていきたい。
- JR としても地域・住民の声や(先ほど加藤会長がおっしゃられた行先表示等の)利用者目線での分かりやすさを大事にしていきたい。

以上